

第2回 第2期岡崎市スポーツ推進計画策定委員会 議事録

日 時：平成31年3月26日（火）14時00分

場 所：岡崎市役所東庁舎2階大会議室

出席者：（委員）堀越哲美委員、上原三十三委員、廣美里委員、三井政昭委員、
杉山まゆみ委員、土赤光宏委員
（事務局）社会文化部 河内部長、スポーツ振興課 中村課長、山田副課長、大竹係
長、音羽係長、稲吉係長、野田主事

傍聴者：なし

資 料：次第

- 資料1 スポーツに関するアンケート 調査結果（要点）
- 資料2 岡崎市が実施したスポーツ関連事業（2018年度スポーツ振興課所管分）
- 資料3 岡崎市が実施すべき今後の取組の方向性について
- 参考資料 アンケート調査の結果

次 第

1 あいさつ

堀越会長（内容省略）
河内部長（内容省略）

2 議題

(1) 報告事項

- ① 市民アンケート調査の結果と岡崎市民のスポーツ実施率について（資料1）
- ② 平成30年度に実施した岡崎市のスポーツ関連事業について（資料2）

・事務局より資料1・2を説明。

〈以下、各委員の意見等〉

堀越会長 ・資料1、2について説明いただいた。ご意見・ご質問があればお願いしたい。

土赤委員 ・スポーツに関するボランティアに参加した割合は9.8%との報告があったが、その内容についてわからないか。

事務局 ・参考資料の25頁のところで、スポーツボランティア活動の内容についての集計結果を掲載している。国の調査に準じて比較しているのので、具体的な活動内容までは分からないが、結果は国の結果と大差はない結果となっている。

・参考までに参考資料26頁に活動のきっかけについてたずねた結果がある。1番は「好きなスポーツの普及・支援」で、次いで、「出会い、交

流の場」、「大会・クラブ等への家族友人の参加」という結果となっている。

- 堀越会長
- ・スポーツ実施率が前回調査から下がっているが、これは統計の取り方の問題も影響していると考えられる。その点も含めて見ていきたい。
 - ・参考資料の 17 頁に今後のスポーツの実施意向があり、中高生では「家庭用ゲームによる運動」が 12.8%と志向性が高い。これを e スポーツという意味でとらえると面白い結果であると感じた。

(2) 審議事項（意見交換）

岡崎市が実施すべき今後の取組の方向性について（資料 3）

- ・事務局より資料 3 を説明。

〈以下、各委員の意見等〉

- 堀越会長
- ・資料 3 の 9 頁にある「スポーツ実施率の向上」に向けた視点、12 頁にある「競技力の向上」に向けた視点、この点についてご意見を頂戴したい。
- 廣 委 員
- ・県の教育委員会で子どもの体力評価に関与した経験から、岡崎市の子どもの他市町村と比べ運動能力が高い、スポーツ実施率も平均以上と思われる。
 - ・岡崎市は子どものスポーツに対する取組はレベルが高い。これを維持すると市のプライドにつながる。
 - ・バレーボールで言えば、高卒後、かつては中電岡崎（男子）や日清紡（女子）が選手を受け入れ支えたが、今は企業が離れている。トップアスリートの視点ではないが、いくつか種目を取り上げて地域のクラブチームで受け入れ、広く一般で大会を行うことでスポーツを盛り上げていくという考えはありだと思う。
 - ・中高生には e スポーツ、ボルダリングの人気の高い。e スポーツを公共の場でやってみる、ボルダリングの施設を用意するなど、大胆な取り組みではあるが、中高生のニーズにあったものをやると地域に活気が出ることになるのではないか。
- 三井委員
- ・全国大会への参加状況をみれば、岡崎市の小中学生の各競技のレベルは高い。高校入学の際、かつては名古屋の私学に流れていたが、ここ数年はそうした選手でも地元の高校で受け取ってもらい活躍するようになってきた。
 - ・これまでは小中学生の部活のレベルが高かったが、今後、明らかに制限を受けてやれなくなる。今までのレベルを学校の部活で維持するのは無理である。今後小中学生の段階をどこで育てるのか、そこに取り組まないといけない。
 - ・インターハイ、国体、五輪を目指すような選手には、競技力向上委員会とか選手強化対策本部のようなものをつくって、市がバックアップする

ようなことができないか。

- ・企業や大学に任せるのではなく、市内の優秀な指導者を確保して地元で選手を育てる組織づくりが必要である。競技団体をうまく活用してもいいと思う。
- 堀越会長
- ・①スポーツ実施率の向上と②子どもたちの競技力向上に関して力強い意見を頂戴した。
 - ・資料3（8頁）にある、実施するスポーツの種類に関して、4つめに「学校体育、部活動のスポーツ」とあるが、これを一くりにしないで、学校の体育と地域のクラブ的なものに分けて考えることが必要かと思われる。
- 杉山委員
- ・無関心層の方々を引き込むには、「いつの間にかやっている」「運動が嫌いな方に運動してもらおう」ことがポイントになる。
 - ・11頁に県のライフステージに応じた運動プログラムが示されているが、無理のない方法から入って、日常生活の中に自然に取り組んでいけるものになっている。そのような視点から取組を考えていくことが必要と思う。
- 上原委員
- ・無関心層への機会づくりという面では、「何となくやらない」「時間が無い」という方々が気軽にできる環境が必要。河川整備もその一つであると思う。
 - ・『いつでも、どこでも、一人ででも』運動できるようにするには、先ほどのeスポーツも一つ的手段になり得る。組織づくりも大切だが、組織に入りたくない人もいるので、普段忙しいビジネスパーソン等のことを考えると、日常の領域の中での取組についてアイデアを出していければと思う。
- 堀越会長
- ・知らないうちにスポーツに取り組んでいるという発想は大事だと思う。
 - ・千葉県での取組で桜を何カ所かすべて歩いて回るというイベントがあるが、そうした仕掛けがあると自ずと歩くようになる。
- 土赤委員
- ・国は病気にならないための施策を展開しているが、市では健康につながる施策として、スポーツを始めるための万歩計とかポールなどの購入費の一部を補助してもらような取組は考えられないか。
 - ・小さなお子さんとその親を対象に、土日の保育園等を活用して「親子でできるスポーツレク」などを開催すると、スポーツを楽しむ時間が増えると思う。
 - ・スポーツに親しむ上では場所の問題があるので、前回も発言したが、公民館などの開放ができると効果が大きいのではないか。
 - ・ゴミを拾う「スポごみ」というスポーツがある。マラソンや駅伝の前に取り組んでみてはどうか。ボランティアを集めるきっかけにもなるし、防災の日に取り組めば地域防災にもつながっていくと思われる。

- 三井委員 ・中高年は「健康」という意識は強く持っている。人間ドックの結果、「運動しなさい」「歩きなさい」と指導するだけでなく、健康増進課、保健所、保健センターと組んで、健康づくりのためのプログラムをそうした方々に提供する、健康づくりに関する情報を提供するそうした取組が必要と思う。
- 上原委員 ・週末に名古屋市星ヶ丘にいたところ、早朝からカラフルなスポーツウェアを着た方々が集まっていた。個人的にウォーキングをした方やジョギングをした方が、集まって楽しくおしゃべりをしている。年齢層は幅広く30歳代から60歳代くらいと思われる。そんな雰囲気のところ岡崎市にもできると良いかなと思った。スポーツが日常の文化の一つになる。
- 三井委員 ・皇居のお堀端、名古屋であれば名城公園がそうした場になっている。
・岡崎市で言えば、例えば中央総合公園のような広い場所に集まりやすい雰囲気ができると良い。
- 廣委員 ・台湾では、市中にある公園が市民の運動の場になっている。1周30分くらいかかる公園を老若男女がウォーキングをしている。あちこちでヨガや太極拳を楽しんでいる。自転車をこぐと噴水が出るような器具もあった。
・ノルウェーでは、駅から住宅街に入る一角の屋外に、筋トレ器具が置いてあって自由に使えるようになっており、普段運動をやれない人がぱっと取り組めるようになっている。
・岡崎公園の中にそうしたものつくって、歴史文化とスポーツをタイアップさせて人が集まるようになってもいいのではないかな。
- 杉山委員 ・岡崎市は学校開放事業が進んでいるが、学区により規模が異なるので、大きな学区では新しくスポーツをやりたくても体育館がとれない状況になっている。そうしたところでは拠点整備が進むとスポーツ実施率はもっと上がっていくのではないかな。
- 堀越会長 ・「競技力の向上」のところの3番目の視点に関連して何かご意見があれば。
- 廣委員 ・資料の13頁にある「2020東京オリンピック・パラリンピックあいち選手強化事業」の専門部会に関わっている。競技団体を通じて公募され選手が選ばれて、年間20～30万円の強化費が支給されているが、選手によっては使い切れずに返金しているケースが少なくない。かなりの額が返金されている。
・仮に岡崎市でこの種目でこの選手が選ばれたとなったら、県と市がタイアップして選手をもっとサポートしていく取組が大事なところと感じている。競技団体としても、細かな支援、助言が行き届かなくて、選手も困っている状態もある。
・「あいちトップアスリートアカデミー」に関しても、選手の発掘に関し

ては市町の方がよく知っているので、情報をしっかり県へ上げていく必要がある。

- 堀越会長
- ・地元の有望なアスリートを支える視点に関しては、県との関係をしっかりとつくっていくことが重要かと考える。
 - ・今回、「スポーツ実施率の向上」に向けての3つの視点、「競技力の向上」に向けての3つの視点を提示いただき、皆さんからご意見を頂いた。
 - ・これらの視点については必要なことであるとの共通の認識であったと思う。
 - ・本日頂いたご意見は、問題がなければ、今後の施策に反映していくということで、本日の協議は終えることとしたい。

3 その他

事務局よりの連絡事項

(15時15分 閉会)